

## 大原薬品が EUSA Pharma(ユーサファーマ)から 白血病治療剤「エルウィナーゼ®」の日本での開発・販売権を取得

大原薬品工業株式会社(本社:滋賀県甲賀市、代表取締役社長:大原誠司、以下大原薬品)は、EUSA Pharma(本社:英国及び米国、代表取締役社長:Bryan Morton(ブライアン・モートン)、以下EUSA)より、日本における白血病治療剤エルウィナーゼ®の開発権並びに販売権を取得したことを発表しました。大原薬品は、日本の規制当局から要求される後期開発を実施することとなり、EUSAは大原薬品の開発業務を支援することとなります。

エルウィナーゼ®は Erwinia chrysanthemi という細菌に由来する L-アスパラギナーゼであり、他の抗がん剤と併用して急性リンパ性白血病他の治療に用いられます。本剤は、カナダ、英国をはじめ 10 数カ国で承認され、世界 60 カ国以上で臨床使用されております。現在いくつかの国においても申請手続きが実施されています。

大腸菌アスパラギナーゼは 1971 年より日本において急性リンパ性白血病患者に使われてきました。大腸菌アスパラギナーゼは併用する抗がん剤の効果を増強し、副作用を減少することに有用な薬剤ですが、しばしばアレルギー反応のために同治療は中止せざるを得ませんでした。これに対し、エルウィナーゼ®は大腸菌アスパラギナーゼと交差耐性を持たないために、代替薬として多くの国で臨床使用されてきました。

EUSA の Bryan Morton (ブライアン・モートン) 社長は、「日本市場に対して初めてのパートナーシップを確立する今回の契約はEUSAにとって重要な戦略的意味を持ちます。過去4年間にEUSAは、製品の広範なポートフォリオを打ち立て、ヨーロッパ及び北アメリカの得意分野における販売構造を作り上げる大きな進展を示してきました。同時に我々は、世界中 80 カ国以上の患者さんに対して製品を供給する広範なネットワークを実現しています。大原薬品との新たなパートナーシップにより拡大する我々の販売網は、世界のメジャーな医薬品市場全てをカバーすることとなります」と述べています。

大原薬品の代表取締役社長は、今回の権利取得により「エルウィナーゼ®は、大原薬品の抗がん剤およびオーファンドラッグの成長ポートフォリオにぴったり合う製品であります。我々は、CSR活動の一環として厚労省並びに専門医師と共に、本療法を日本の白血病患者さんに使えるようにしたいと考えています」と述べています。

EUSA Pharma (ユーサファーマ) は、2006年に設立され、急速に成長している欧米圏で腫瘍薬、疼痛制御、救急医療に特化するスペシャリティー医薬品企業です。

大原薬品工業株式会社は、1957年に創業、1964年に設立され、「何よりも患者さんの立場で医療の未来のために信頼の医薬品を」をモットーに、医療用医薬品・原料医薬品を中心に開発・製造・販売を行っています。特にジェネリック医薬品及びオーファンドラッグを事業の柱として拡大を図り、昨年度の売上伸び率は127.5%と、業界でもトップクラスの成長率を誇っています。また、今年度よりスタートした第4次3ヵ年計画においては、最終年度の2012年度に売上高150億円を目標として積極的に事業を推進しています。

以上

本件に関するお問い合わせ先:

大原薬品工業株式会社

担当: 芦澤(あしざわ) 井用(いよう)

TEL: 03-6740-7701 e-mail: info@ohara-ch.co.jp